宗像

西日本菊花大会 閉幕

内閣総理大臣賞に 時田 義光氏（佐賀県鳥栖市）

大きな天候の乱れもなく、連日多くの参拝者で賑わった西日本菊花大会【主催＝宗像大社菊花会（千々和正信会長）・宗像観光協会（吉武邦彦会長）、後援＝福岡県他】が、先月二十二日盛大裡に終了した。

この菊の祭典は「昭和の大造営」を奉祝し、昭和四十六年に第一回大会が開催され、今年で四十回目となる。境内には九州各県、山口の菊愛好家約百人から、丹精込めて育てられた菊約三千鉢が出品され、質・量ともに西日本最大規模を誇る菊花の祭典である。

開催にあたっては、宗像市商工会青年部、宗像大社菊花会、（社）宗像青年会議所、運送関係協賛会社の御

遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

雫滴

十一月二十三日、当大社をはじめ全国の各神社で「新嘗祭（にいなめ）」が斎行された。今日「勤労感謝の日」となっているが、本来は神々に今年の収穫感謝する行事として、その起源は遠く弥生時代にまで遡ることができる▼また天皇陛下御自ら新穀を神々に供え、夜を徹し五穀豊穣を神々に御奉告されるのが新嘗祭であり、これに倣って全国の神社においても斎行されるのである▼ところで、今日我が国では多くの食料を海外からの輸入に頼っており、食料自給率の低さは大きな問題となっている。しかし農林水産省によると、スーパーなどでは製造から賞味期限までの期間が三分の二を過ぎると、店頭から撤去する「1／3ルール」を慣例としており、期限内に廃棄される食品は年間一千万㌧超だという▼日本人は食事の前に「いただきます」と手を合わせ、感謝の気持ちを抱きながら食べ物を口にしてきた。ところが、今日はまだ食べられる食品を大量に廃棄しているという実態がある▼グローバル化の波に揉まれ、様々な職を生業（なりわい）とされている方々もおり問題は単純ではないが、農耕民族、稲作文化など、日本人としての伝統文化や特性というものがどうあるべきか、「新嘗祭」に御奉仕し考えさせられた。（坂）

神具・装束・授与品 井筒
装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401 フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23 フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技
総合建築業 株式会社 弘江組
〒811-3406福岡県宗像市稲元4丁目1-20 電話(0940)32-2567

奉仕をいただき展示された。

十一月一日、福岡県農業試験場園芸研究所花き部小代文明部長を審査長として審査が行われ、大輪・盆栽・懸崖・特作の四部門各々非常に厳しい出品基準、審査基準により厳正に審査された。

本年は例年にない猛暑の影響と春先の降雨の少なさにより、菊作りには厳しい気象条件であったものの、台風等の天災を受けることなく、十一月一日には多くの菊花が咲き誇ることとなり、上位三位に内閣総理・農林水産・文部科学大臣賞が授与された。

同十四日には、来賓として高向宮司、古賀敬章衆議院議員、塩川亨玄海小学校長をお迎えし、午前十時より清明殿で表彰式が行われ、菊の講評や労いがなされた。

期間中境内では、例年の例年の「菊みくじ」や、勅使館を特別開放し行った「茶房」、観光協会による「いっぷく茶屋」を実施、さらには宗像市観光ボランティアの皆様による境内案内なども行われた。

また本大会は四十周年の節目の大会として、会員有志一同で「40きくまつり」と菊文字でできた特別花壇を境内祓舎前に設置した。また例年好評のキャラクター菊人形も儀式殿前に展示、七五三詣の参詣者を中心に記念写真撮影場所として賑わいをみせた。

本大会開催にあたり、ハウスの設営、組立、菊花運搬等の奉仕活動にご協力頂きました多くの皆様へ誌面を借りまして厚く御礼申し上げます。

各賞、受賞者は下記の通り（敬称略）

内閣総理大臣賞	輪	栃木市	時田 義光	内閣総理大臣賞	懸崖作り	福岡市	古原 正則	内閣総理大臣賞	特大盆栽	福岡市	安田 剛
農林水産大臣賞	懸崖作り	栃木市	和田 太義	農林水産大臣賞	作助作り	福岡市	林田 憲治	農林水産大臣賞	特大盆栽	福岡市	石原 睦
文部科学大臣賞	盆栽作り	栃木市	深水 喜代子	文部科学大臣賞	輪作り	福岡市	佃 俊美	文部科学大臣賞	特大懸崖	福岡市	中尾 昭文
総務大臣賞	特懸作り	栃木市	三口 澄夫	総務大臣賞	助作り	福岡市	一世 勝幸	総務大臣賞	特大懸崖	福岡市	豊原 勝行
法務大臣賞	特懸作り	栃木市	籾井 弘己	法務大臣賞	輪助作り	福岡市	安武 善隆	法務大臣賞	特大盆栽	福岡市	城本 静子
外務大臣賞	特懸作り	栃木市	重光 由紀子	外務大臣賞	作り	福岡市	生武 静男	外務大臣賞	特大盆栽	福岡市	野中 昭夫
財務大臣賞	懸崖作り	栃木市	古原 正則	財務大臣賞	栽作り	福岡市	御田 良知	財務大臣賞	特大盆栽	福岡市	井中 藤子
厚生労働大臣賞	懸崖作り	栃木市	林田 憲治	厚生労働大臣賞	作り	福岡市	社家間 サツキ	厚生労働大臣賞	特大盆栽	福岡市	田井 弘之
経済産業大臣賞	懸崖作り	栃木市	佃 俊美	経済産業大臣賞	輪作り	福岡市	中川 泰祐	経済産業大臣賞	特大盆栽	福岡市	嶋田 廣之
国土交通大臣賞	懸崖作り	栃木市	一世 勝幸	国土交通大臣賞	助作り	福岡市	郡 好人	国土交通大臣賞	特大盆栽	福岡市	田井 弘之
環境大臣賞	懸崖作り	栃木市	安武 善隆	環境大臣賞	作り	福岡市	倉田 征喜	環境大臣賞	特大盆栽	福岡市	本原 藤子
防衛大臣賞	懸崖作り	栃木市	生武 静男	防衛大臣賞	輪作り	福岡市	保田 直宏	防衛大臣賞	特大盆栽	福岡市	尾 昭夫
内閣官房長官賞	懸崖作り	栃木市	御田 良知	内閣官房長官賞	栽作り	福岡市	福嶋 廣之	内閣官房長官賞	特大盆栽	福岡市	原 静子
衆議院議長賞	懸崖作り	栃木市	社家間 サツキ	衆議院議長賞	作り	福岡市	花田 弘之	衆議院議長賞	特大盆栽	福岡市	田 勝行
宗像大社宮司賞	懸崖作り	栃木市	中川 泰祐	宗像大社宮司賞	作り	福岡市	籾井 藤子	宗像大社宮司賞	特大盆栽	福岡市	本 勇文
宗像大社社務所賞	懸崖作り	栃木市	郡 好人	宗像大社社務所賞	輪作り	福岡市	野中 昭夫	宗像大社社務所賞	特大盆栽	福岡市	原 睦生
九州農業試験場長賞	懸崖作り	栃木市	倉田 征喜	福岡県農業大学校長賞	作り	福岡市	一世 静子	福岡県知事賞	特大盆栽	福岡市	田 剛
福岡県知事賞	懸崖作り	栃木市	保田 直宏	福岡県知事賞	助作り	福岡市	城本 勝行	福岡県知事賞	特大盆栽	福岡市	
福岡県議会議長賞	懸崖作り	栃木市	福嶋 廣之	福岡県議会議長賞	輪作り	福岡市	豊原 勇文	福岡県議会議長賞	特大盆栽	福岡市	
福岡県教育委員会教育長賞	懸崖作り	栃木市	花田 弘之	福岡県教育委員会教育長賞	作り	福岡市	中尾 昭文	福岡県教育委員会教育長賞	特大盆栽	福岡市	
佐賀県知事賞	懸崖作り	栃木市	籾井 藤子	佐賀県知事賞	作り	福岡市	原 睦生	佐賀県知事賞	特大盆栽	福岡市	
長崎県知事賞	懸崖作り	栃木市	野中 昭夫	長崎県知事賞	輪作り	福岡市	田 剛	長崎県知事賞	特大盆栽	福岡市	
熊本県知事賞	懸崖作り	栃木市	一世 静子	熊本県知事賞	作り	福岡市		熊本県知事賞	特大盆栽	福岡市	
大分県知事賞	懸崖作り	栃木市	城本 勝行	大分県知事賞	助作り	福岡市		大分県知事賞	特大盆栽	福岡市	
宮崎県知事賞	懸崖作り	栃木市	豊原 勇文	宮崎県知事賞	輪作り	福岡市		宮崎県知事賞	特大盆栽	福岡市	
鹿児島県知事賞	懸崖作り	栃木市	中尾 昭文	鹿児島県知事賞	作り	福岡市		鹿児島県知事賞	特大盆栽	福岡市	
内閣官房長官賞	懸崖作り	栃木市	原 睦生	内閣官房長官賞	作り	福岡市		内閣官房長官賞	特大盆栽	福岡市	
農林水産大臣賞	懸崖作り	栃木市	田 剛	農林水産大臣賞	助作り	福岡市		農林水産大臣賞	特大盆栽	福岡市	
文部科学大臣賞	懸崖作り	栃木市		文部科学大臣賞	輪作り	福岡市		文部科学大臣賞	特大盆栽	福岡市	
総務大臣賞	懸崖作り	栃木市		総務大臣賞	作り	福岡市		総務大臣賞	特大盆栽	福岡市	
法務大臣賞	懸崖作り	栃木市		法務大臣賞	助作り	福岡市		法務大臣賞	特大盆栽	福岡市	
外務大臣賞	懸崖作り	栃木市		外務大臣賞	輪作り	福岡市		外務大臣賞	特大盆栽	福岡市	
財務大臣賞	懸崖作り	栃木市		財務大臣賞	作り	福岡市		財務大臣賞	特大盆栽	福岡市	
厚生労働大臣賞	懸崖作り	栃木市		厚生労働大臣賞	助作り	福岡市		厚生労働大臣賞	特大盆栽	福岡市	
経済産業大臣賞	懸崖作り	栃木市		経済産業大臣賞	輪作り	福岡市		経済産業大臣賞	特大盆栽	福岡市	
国土交通大臣賞	懸崖作り	栃木市		国土交通大臣賞	作り	福岡市		国土交通大臣賞	特大盆栽	福岡市	
環境大臣賞	懸崖作り	栃木市		環境大臣賞	助作り	福岡市		環境大臣賞	特大盆栽	福岡市	
防衛大臣賞	懸崖作り	栃木市		防衛大臣賞	輪作り	福岡市		防衛大臣賞	特大盆栽	福岡市	
内閣官房長官賞	懸崖作り	栃木市		内閣官房長官賞	作り	福岡市		内閣官房長官賞	特大盆栽	福岡市	
衆議院議長賞	懸崖作り	栃木市		衆議院議長賞	助作り	福岡市		衆議院議長賞	特大盆栽	福岡市	
宗像大社宮司賞	懸崖作り	栃木市		宗像大社宮司賞	輪作り	福岡市		宗像大社宮司賞	特大盆栽	福岡市	
宗像大社社務所賞	懸崖作り	栃木市		宗像大社社務所賞	作り	福岡市		宗像大社社務所賞	特大盆栽	福岡市	
九州農業試験場長賞	懸崖作り	栃木市		福岡県農業大学校長賞	助作り	福岡市		福岡県知事賞	特大盆栽	福岡市	
福岡県知事賞	懸崖作り	栃木市		福岡県知事賞	輪作り	福岡市		福岡県知事賞	特大盆栽	福岡市	
福岡県議会議長賞	懸崖作り	栃木市		福岡県議会議長賞	作り	福岡市		福岡県議会議長賞	特大盆栽	福岡市	
福岡県教育委員会教育長賞	懸崖作り	栃木市		福岡県教育委員会教育長賞	助作り	福岡市		福岡県教育委員会教育長賞	特大盆栽	福岡市	
佐賀県知事賞	懸崖作り	栃木市		佐賀県知事賞	輪作り	福岡市		佐賀県知事賞	特大盆栽	福岡市	
長崎県知事賞	懸崖作り	栃木市		長崎県知事賞	作り	福岡市		長崎県知事賞	特大盆栽	福岡市	
熊本県知事賞	懸崖作り	栃木市		熊本県知事賞	助作り	福岡市		熊本県知事賞	特大盆栽	福岡市	
大分県知事賞	懸崖作り	栃木市		大分県知事賞	輪作り	福岡市		大分県知事賞	特大盆栽	福岡市	
宮崎県知事賞	懸崖作り	栃木市		宮崎県知事賞	作り	福岡市		宮崎県知事賞	特大盆栽	福岡市	
鹿児島県知事賞	懸崖作り	栃木市		鹿児島県知事賞	助作り	福岡市		鹿児島県知事賞	特大盆栽	福岡市	

※以下、受賞者につきましては、紙面の都合上割愛させていただきます。

沖津宮・中津宮 秋季大祭斎行

去る十月二十二日、中津宮が鎮座する筑前大島に於いて、沖津宮・中津宮の秋季大祭が秋澄む空の下、厳粛且つ盛大に斎行された。

この大祭は旧暦の九月十五日に斎行され、漁村である大島は漁止めとなり島全体を挙げての大祭となる。又、神賑行事として島内の各地区・団体より演芸の奉納もあり、盛大に斎行されている。

大祭前日、中津宮境内は沖・中両宮奉賛会、同翼賛会、同敬神婦人部のご奉仕により社殿・境内の装飾、本殿東側には秋季奉納演芸大会の舞台等、大祭準備が全て整えられた。午後五時からは沖津宮遙拝所、中津宮に於いて宵宮祭が斎行され、翌日の大祭の無事斎行を祈念した。

大祭当日、沖津宮遙拝所にて沖津宮秋季大祭・大島の最高峰に鎮座する御嶽山頂で御嶽神社祭・宮崎地区で厳島神社祭がそれぞれ執り行われた。

午前十一時、島内外から多くの参列者を迎え、中津宮秋季大祭が高向宮司を斎主に、氏子奉幣使 真鍋信博氏の奉仕のもと祭典を斎行、巫女による浦安舞も奉奏され、大祭は厳かに滞り無く修められた。

氏子奉幣使を御奉仕された真鍋信博氏

祭典後、午後一時三十分から奉納演芸大会が始まり、子供達による太鼓やダンス、各地区からは舞踊・カラオケ等が披露され、秋色が深まる境内は今も昔も変わらぬ神賑わいをみせた。夕刻には全ての演目も終了し、平成二十二年度の秋季大祭は幕を閉じた。

祭典後の演芸大会

第37回 秋季奉納盆栽展

三十七回目を迎えた恒例の秋季奉納盆栽展が十一月十二～十五日の四日間、本殿西側の境内で開催された。

十二日の午前八時から、盆栽会々員、担当神職、管理員の手で会場の設営が始まり、会場が完成すると出品の盆栽を各地区より搬入。

優美な黒松や五葉松などの松柏盆栽をはじめ、秋にふさわしい山柿・紅葉・姫林檎などの雑木盆栽や小品盆栽が出品され、昨年にも増して秀作を集めた開催となった。

今回は既報の通り、盆栽会々長の石松重敏氏より日本盆栽協会青樹展で内閣総理大臣賞を受賞した日本一の「もりいばら」を出品いただき、菊花大会での大臣賞受賞菊と並び大前に特別展示された。

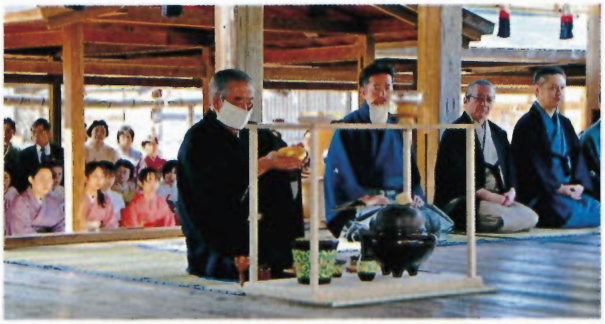
期間終盤の十三日（土）、十四日（日）は七五三詣もピークを迎え、菊花展開催期間中最も賑わいをみせた。なかなか観覧することのできない盆栽だけに注目を集め、多くの参拝者が足を止め優美な姿に見入っていた。

日本盆栽協会青樹展で内閣総理大臣賞を受賞した日本一の「もりいばら」

表千家々元奉仕 献茶祭斎行

十月十七日錦秋の一日を彩る恒例の献茶祭が、出光興産㈱奉納により斎行され、福岡県内はもとより山口・九州各県の同門会員をはじめ、日々茶道に勤しむ人々約六〇〇名が参集し、和服姿の女性達で終日華やかな雰囲気が漂った。

この献茶祭は、昭和三十七年当時の宗像大社復興期成会々長であった出光佐三氏（出光興産創業者）の尽力により始まり、毎年表千家家元が直々に御奉仕されている。茶道を志す方々にとっては、家元の御手前を真近かで拝せる待望の行事ともなっている。



祭典当日は、早朝より爽快な秋晴れとなり、定刻午前十一時、一鼓を合図に奉仕神職、表千家家元而妙斎千宗佐宗匠以下介添役、出光興産㈱名誉会長出光昭介氏以下同社役員、西高辻信良同門会長（太宰府天満宮宮司、福岡県神社庁長）他関係者は、祓舎にてお祓いの後、本殿へと参進、所定の座に着座し献茶祭が斎行された。

斎主が茶道の興隆と表千家の隆昌、同門会の繁栄を祈念する祝詞を奏上、続いて「献茶の儀」が執り行われた。

家元は拝殿にしつらえられた風炉前に端座、袱紗さばきも鮮やかな「動と静」とが見事に調和した淀みない清らかな御点前が披露された。

そして濃茶・薄茶の二服が点てられると、雅楽の調べが流れる中、神職の手により御神前に奉献され献茶祭は無事に終了した。

祭典後、参列者は、儀式殿に設けられた出光副席、斎館に設けられた同門会副席に交互に参席し、茶席に掲げられた掛軸、茶道具の逸品を鑑賞しながらお茶を戴き至福の一刻を楽しんだ。

また宗像観光協会のご協力により、昼食ブースが昨年に続き設けられ、参列された方々は、昼食をとり開放された清明殿で休憩され好評を博していた。

第35回 清香吟社秋季奉納吟詠大会

秋晴れの十一月三日、秋季恒例の清香吟社による秋季奉納吟詠大会が開催された。

午前十時、県内外より宗家・宗嗣松岡翔山氏をはじめ、会員約五十名が当大社へ参集。明治祭終了後正式参拝を執り行い、献吟並び会員一同による「吟道」の合吟が奉納された。

献吟後は清明殿で吟詠大会が開催され、永年斯道の興隆に寄与された会長の藤井陽月氏と吟道歴十年になる伊藤慶月氏へ、杉山権禰宜より感謝状と記念品が贈呈された。

その後、会員各位による吟が次々に披露され、午後三時には大会も無事に終了、一同飛躍を誓い境内を後にされた。

第2回 博陽吟道会秋季奉納吟詠大会

十一月十日、博陽吟道会（代表＝藤井陽月氏）の秋季奉納吟詠大会が開催された。

宗像・福津両市在住の吟道愛好家三十余名により、昨年一月に結成され、今年で第二回目の奉納吟詠大会となった。

当日は午前十一時本殿で正式参拝、引き続いて会長の藤井陽月氏による献吟、会員一同による合吟が奉納された。

献吟後は清明殿で吟詠大会が開催され、永年斯道の興隆に寄与された会長の藤井陽月氏と吟道歴十年になる伊藤慶月氏へ、杉山権禰宜より感謝状と記念品が贈呈された。

その後、会員各位による吟が次々に披露され、午後三時には大会も無事に終了、一同飛躍を誓い境内を後にされた。

第39回 宗像大社短歌大会

実行委員会 野間 精一

●小学生の部＝一七〇首 ●中学生の部＝五三二首
●高校生の部＝六六四首 ●一 般の部＝二三八首
計 ＝ 一、六〇四首

第三十九回宗像大社短歌大会（実行委員会主催・毎日新聞社共催）が十一月六日清明殿で開催された。

午前九時より「小・中・高生の部」が約六十名出席の下行われ、まず山田勝智実行委員会長より祝辞があり、桜川冴子先生の選評が行われた。

正午からは「一般の部」が約六十名の出席の下行われ、宗像大社より葦津禰宜の挨拶があり、続いて五所美子先生による「歌のはじまり『古事記』の歌」と題した講演が行われ、神武・仁徳・雄略天皇の詠んだ歌の背景などを解説され、深い感銘を与えた。

選者は青木昭子、桜川冴子、野田光介、百合本具子の四氏で、先生方による選評も行われ、表彰式が行われ今年の大会を終了した。

今回は地元以外の地域からの応募が増え、応募総数も小・中・高生の部、一般の部ともに過去最多であった。なかには秋田・静岡・広島県と遠方から応募の方もいらっしゃった。

主な受賞者・受賞作品は次の通り。

一般の部

◆福岡県知事賞　宮原ますみ
コスモスの縋るは風の腕（かひな）みの
縹（はなだ）のいろの空遠く澄む

◆福岡県教育委員会賞　阪元かつこ
長旅の途次の私は橋の上
羽を休めて風を読む鴨

◆宗像市長賞　原口まちこ
若きらに混じり髪切るはつ夏の
鏡の奥の遠い青春

◆宗像市教育委員会賞　大西　晶子
あからひく朝どりトマト、胡瓜食べ
わが身はなやぐ華甲の夏を

◆毎日新聞社特別賞　岸原　修
すつぱりと記憶の扉閉ぢたきに
過去は静かに死んではくれず

◆宗像大社宮司賞　森　京子
泣きごとを言わない母を車椅子に
押せばきしみてキュルキュルと鳴る

◆宗像大社氏子会賞　相良　信夫
若きらが駆けてわたしが立ち止まる
炎暑天神交差点かな

小校生の部

◆宗像市長賞（津屋崎小）　かわばたかける
ならキャンプならのだいぶつぼくみてた
しあいのときもぼくをみていた

中校生の部

◆宗像市長賞（福山市・鷹取中）　中田　昌伸
背の高いカンナのいろは油絵の
太陽と同じひかりの化身

高校生の部

◆宗像市長賞（宗像高）　秋子　真吾
滑り込むホームは指の僅か先
あと数センチが遠い甲子園

宗像大社刀剣展

今年で二十三回目となる秋季恒例の刀剣展が、十月三十日～十一月二十三日の会期で境内・神宝館にて開催され、刀剣愛好家をはじめとした多くの拝観者が日本刀に見入った。

この展示会は、昭和五十年より始まった二十五振の奉納刀剣研磨を十二年の歳月をかけて完了、この慶事に当時秘蔵であった刀剣類のお披露目を企画、個人蔵の愛刀も拝借する形で、同六十二年十一月に「宗像名刀展」と題して開催した。以来、秋季神賑行事である「西日本菊花大会」に合わせ毎年開催している。

本年も当大社奉納刀剣のほか、宗像周辺の愛好家の所蔵品の展示が叶い、鎌倉時代後期の古刀から現代刀まで計五十八振が陳列された。

名工を輩出してきた相模・美濃・山城・大和・備前国の作品はもちろん、これら五ヶ伝の流れを引くもの、九州各地の名工の手によるもの等選りすぐりの逸品が展示され、匠の技術の結集である刀装具も出品された。

一切の無駄を省いた姿、技量が研ぎ澄まされた鍛え（地がね）肌や刃文、信仰と結びついた刀身彫刻、随所にある見所を拝観者は思い思いに味わいながら、刀剣の歩んだ歴史や日本人に受け継がれる美意識に感銘した様子であった。

本展覧会に御尽力賜りました皆様には心より御礼申し上げます。

厄年

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった『厄』にあうおそれが多いため、忌み慎まねばならないという年です。

特に男性の四十二歳、女性の三十三歳は『大厄』とされ、その前後の年も『前厄・後厄』といって、最も慎み忌むべき年とされています。

我々日本人の永年の生活習慣から発生した、我が国独自の慣習でありますが、厄年を迎えると我々の先祖は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。医学的にみても、男性の四十代は生活習慣病、女性の三十代は乳がん・子宮がんの発生率が高くなる年代で厄年とも符合します。神社でお祓いをうけ、この一年を清々しい気持ちでお過ごしください。

八方塞（はっぽうふさがり）

陰陽道でどの方向に向かって事を成しても、不吉の結果を生ずる年齢とされ、転居、結婚、新しく事をはじめる方は要注意と言われています。

暗剣殺（あんけんさつ）

「九星術」でその年の五黄土星と相対する方位で、最も慎まねばならないとされる大凶の年廻りと言われています。

平成23年 厄年年齢表

生まれ年	厄																
昭和48年	昭和46年	昭和45年	昭和44年	昭和41年	昭和39年	昭和32年	昭和30年	昭和27年	昭和26年	昭和25年	昭和23年	昭和21年	昭和14年	昭和12年	昭和5年	昭和3年	大正10年	
暗剣殺	前厄（男）	大厄（男）	後厄（男）	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	前厄（男）	大厄（男）	後厄（男）	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	厄
38	40	41	42	45	47	54	56	59	60	61	63	65	72	74	81	83	満90	
平成21年	平成14年	平成12年	平成6年	平成5年	平成4年	平成3年	昭和63年	昭和62年	昭和61年	昭和59年	昭和57年	昭和55年	昭和54年	昭和53年	昭和51年	昭和50年	昭和49年	生まれ年
暗剣殺	八方塞	暗剣殺	前厄（女）	大厄（女）・八方塞	後厄（女）	暗剣殺	前厄（男）	大厄（男）	後厄（男）	八方塞	暗剣殺	前厄（女）	大厄（女）	後厄（女）	前厄（女）	大厄（女）・八方塞	後厄（女）	厄
2	9	11	17	18	19	20	23	24	25	27	29	31	32	33	35	36	満37	

新しい授与品のご紹介

縁結守（えんむすびまもり） 初穂料 一、〇〇〇円

このたび、新たに縁結び守りを奉製しました。

当社の御神木である「相生（あいおい）の樫（かし）」は、二本の樫の幹から伸びたそれぞれの枝が仲睦まじく一本に連なっており、その御神徳は男女の絆を深め、恋愛が実ると言い伝えられています。この御神木にあやかり、二体の御守で一体となる御守です。御神徳に導かれ、良き御縁に結ばれますよう御祈念申し上げます。

交通安全守 初穂料 一、〇〇〇円

従来より皆様に好まれていた「交通安全御守」に新色が加わります。

守護矢の形をした御守には、皆様よりご要望の多かった落ち着いた「黒」と、縁起の良い「黄色」を追加致しました。

また同じく交通安全の御守で、ソフトビニールで包まれた御守にも、青・赤に加え「黒」を追加致しました。

新年より、本殿または祈願殿授与所でお受けいただけます。

◆◆◆◆◆ 古式祭の御案内 ◆◆◆◆◆

800年の伝統をもつ、宗像地方の特殊神事「古式祭」が左記日程で執り行われます。振るって御参列下さい。

日　時　12月12日(日)
祭　典　午前6時～
祭　場　宗像大社 本殿
御　座　午前6時30分～一番座
　　(一番座＝50名ずつ、五番座まで)
会　場　宗像大社 清明殿
御座料　1人＝1,000円
※御座券は当日午前6時～販売致します。
(例年午前5時30分位から多くの方が並び始めます。)

◆◆◆ 除夜祭・大祓神事の御案内 ◆◆◆

年の瀬を迎え、皆様には御多忙の御事と拝察申し上げます。今年一年を締め括る「大祓神事」「除夜祭」が近付いて参りました。

この大祓神事は「年越の大祓」と称し、夏(7月31日)に行われた「夏越の大祓」以後半年間の『罪』・『穢れ』を祓い清め、清々しい心身で新年を迎えていただくための神事でございます。

大祓神事に引き続き行われる除夜祭は、この一年に当大社で行われてきた何百回という祭典の中でも最後の祭典です。この祭典が終ると、しばしの静寂を経て元旦を迎えます。

日　時　12月31日(金)　午後3時～
場　所　神門前

尚、遠方または参列出来ない方は、大祓神事当日までに『人形』(男＝白、女＝赤)に息を吹きかけ、御家族の名前・住所・年齢を、『車型』にはナンバーを御記入の上、当大社まで御返送ください。

交通安全 宗像大社 初詣

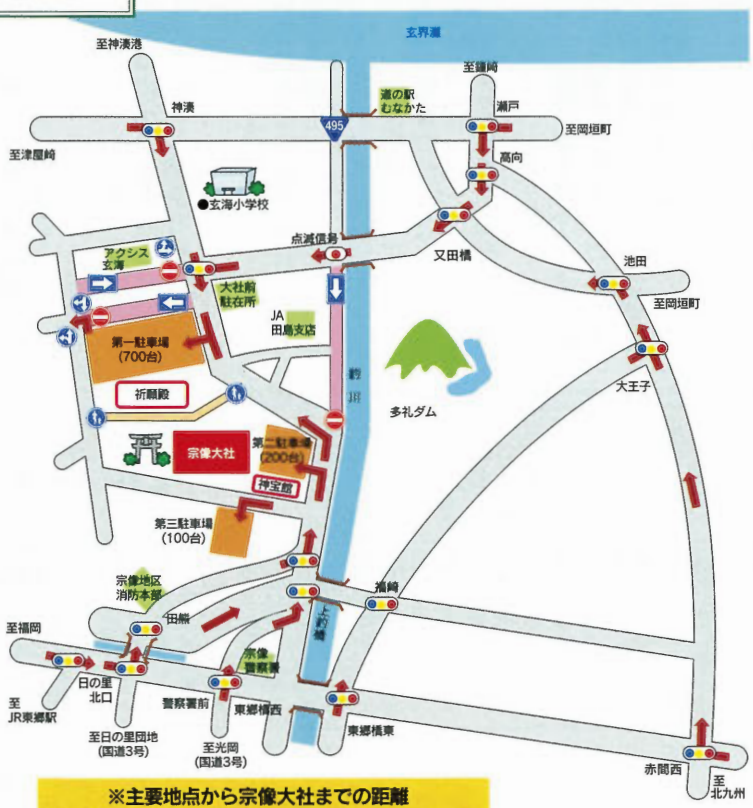
交通規制のお知らせ

期　間

●平成22年12月31日(金)
午後10時から
平成23年1月1日(土)
午後 8 時まで
●平成23年1月2日(日)～1月3日(月)
午前 9 時から午後7時まで
※交通状況により、規制時間を変更することがあります。

凡　例

	宗像大社順路
	一　方　通　行
	歩行者用道路
	車両進入禁止
	交　通　信　号　機
	駐　　車　　場



※主要地点から宗像大社までの距離

★東郷橋交差点から　4.1km　★神湊交差点から　2.0km
★日の里北口交差点から　4.1km　★瀬戸交差点から　3.3km

■公共交通機関をご利用ください

第五九二回 宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日〆切

宗像市　土　穴　山本　静子

額ずけば沓かなる日の祖母顕ちてトロスコトーコーふくろうが鳴く

評 仏間で祖母を思えば梟の声。トロスコトーコーが効き、童話的なつかしさがある。

福津市　若木台　山崎　公俊

太鼓鳴り神官列して位置にあり舞巫女四人も一隅を占む

評 神事の始まりの一場面。漢字の多用で厳粛な雰囲気を表している。やや平板なので、三句のありを〈座す〉などとし、三句切れにしては。

福津市　若木台　野間　精一

釣川の岸辺の薄穂に立ちて大社短歌大会近づく

評 作者は宗像大社短歌大会の運営委員。短歌大会が近づくと気分が高揚する。四・五句は字余りでも宗像大社短歌大会と入れたい。

北九州市　八幡西区　豊田　光子

かく言はばかく返されて雑魚の目に感傷もなく酢をしたたらす

評 下の句の言い負かされ面白くない気持ちの表現が面白い。二句は〈しかと返され〉に。

うきは市　浮羽町　向　則正

わが庭の残暑に耐へし大蓼は紅き穂をたれ小花咲きつぐ

評 大蓼はオオケタデか。残暑に疲れた人間をよそに、咲き継ぐ蓼に元気付けられる作者。

宗像市　田野　森　甲子

おくれ花の紫にほふ野牡丹のはながら散りしくポストへの道

評 野牡丹の花がらの散る道が美しい。二句紫にほふは気分に流れすぎの感じがあるので、〈紫の濃き〉でいいのでは。

福岡市　南　区　井田有久衣

又明日(あした)互に手を振り家路へと送迎車にて右へ左へ

評 夕焼けの空が見えるような歌。二句の字余りは散文的なので〈互いに手振り〉に。

福津市　中　央　池浦千鶴子

いわし雲片寄る午後をくもの巣の蟷螂の殻風に吹かるる

評 秋の午後の空の描写が丁寧。作者は蜘蛛の巣の蟷螂の残骸に無常を感じているようだ。

宗像市　田　久　巻　桔梗

高齢は減り準高齢の応募増し同数保てり短歌大会

評 短歌大会主催者の興味深い一首。言葉が詰まりすぎているのが難点。言葉の運びをゆったりさせたい。例えば〈高齢者減りて初老の応募増え大会詠草同数保つ〉など。

福津市　星ヶ丘　佐々木和彦

水槽に水を注ぎ足し金魚らの生きる範囲を広げてやりぬ

評 発見のある歌。金魚の住む世界は水槽の水の量で広くも狭くもなる。四句、範囲は〈領域〉としてはどうだろう。

北九州市　戸畑区　田中ハツセ

秋風にゆれるる芙蓉の桃色は乙女の風情昔を偲ぶ

評 芙蓉は乙女の風情という作者に同感。桃色のものを身につけた若い日を思う作者か。

福岡市　南　区　加野シノブ

暖たかな秋日さす庭杖だより草に屈みて小さき花見つ

評 庭の植物をたのしむ作者、穏やかで和やかな気分の一首。杖だよりは〈杖により〉に。

宗像市　日の里　大和美由紀

庭先に盗人萩はひっそりと薄紅色の小さき花咲く

評 盗人萩という植物名を上手く活かし静かな情感を出した一首。初句は〈庭先の〉に。

北九州市　八幡西区　吉田ウト子

夕去れば槿は門に落ち初むる萎める花の重さの音に

評 槿の散る音を花の重さの音と捉えた作者に拍手。人の行く末をも思わせる一首。

北九州市　八幡西区　遠藤　幸子

秋の陽に一葉一葉の耀えり大楠われをつつみこむごと

評 楠の大木の下で輝くその葉を見上げる時、作者は楠と一体化していくような心地よさを覚えたのだろう。読者にも心地よさが伝わってくる。

宗像市　東旭ヶ丘　天野　玲子

思はずも言ひ過ぎしことありたるや電話の相手はふっと声のむ

評 作者は繊細な感性の持ち主、電話の相手のたじろぎを気配で感じ自分の言葉をかえりみる。初句を〈思はえず〉、四句は語調を整える為に〈電話の相手〉に。

選者詠

つはぶきの咲くはおそろしそののちを時のながれが急加速する

春秋をしまひおきたるバッグから枯れ葉の香する風こぼれたり

第五六七回 俳句作品集

宗像市日の里　花田いつ枝

直線に曲線に鉄路刈田中

編集後記

沖ノ島へ行ってきました。「由緒記」の編集上、今回は祭祀遺跡23ヶ所全てを拝しました。原生林が生い茂り巨岩ひしめく中、今まで拝したことのなかった遺跡も確認できました▼その中で最も感動を覚えたのが、「1号巨岩（7×10㍍）」です。島の遺跡の1／4にあたる6ヶ所が集中し、4～8世紀の間祭祀が行われました。一ヶ所から21面の銅鏡が出土するなど、「三種の神器」が大量に発見されています▼島の遺跡群でも最高所に位置し、岩上からは正面に玄海灘、背後に灯台（島の最高点）を望みます。学術的に証明されている最も古い国家祭祀がこの1号巨岩であることを思うと、神職として感慨深いものがありました▼日々の喧騒から離れ、少し早いですが新たな年を迎える気持ちにもなりました。これから慌ただしさが増してまいりますが、どうかよいお年をお迎え下さい。（塚）

12月祭事暦

毎月1・15日 月次祭

午前10時
高宮祭
第二宮・第三宮祭
引き続き
宗像護国神社
月命日祭（1日）
巡　　拝（15日）

午前11時～
総社祭
浦安舞奉奏（1日）
豊栄舞奉奏（15日）

12日
午前6時～　古式祭
午前6時30分～　御　座
午前10時～　鎮火祭

19日 松尾神社祭
午前11時～

23日 天長祭
午前11時～

31日
午後3時～年越しの大祓式
引き続き 除夜祭

発行所 宗像大社 宗像大社社務所会

〒811-3505　福岡県宗像市田島
電　話　0940-62-1311（代）
発行人　葦津幹之
編集人　大塚宗延
制　作　ゼネラルアサヒ
印　刷　ゼネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円